



今年で開館40周年 「生きる力」を養う海浜水族館

1982年7月4日に開館した海浜水族館は、今年で40周年という節目を迎えます。これまで、北は北海道から南は沖縄まで、全国各地のいろいろな生物の展示、地元の河川での魚類調査や絶滅危惧種の保護、教育普及など様々な活動が続けてきました。その間、水槽改修や科学館の展示変更（2000年）、ビオトープの新設（2019年）などのリニューアルを行いました。また、40周年を迎えた今年は、開館当初から大水槽前に設置されていた円柱水槽エリアが新しく生まれ変わります。

入館者数も延べ550万人を超え、多く人の憩いの場として親しまれ続けています。

問 海浜水族館 ☎ 48-3761





1. 1982年開館当初の様子（科学館） 2. メガネモチノウオ（通称ナポレオンフィッシュ）は15年以上の古株
3. バックヤードで飼育しているクラゲは、新設される円柱水槽でお披露目予定 4. 小学生の学習の様子

40年間の歩み

7月2日(土)から、40年間をパネルで振り返る特別展「スタッフが選んだ40の出来事」を開催します。

スタッフ全員がこれまでに印象深かった話題を出し合い、40周年にちなみ40個のトピックスを紹介します。珍しい生き物の捕獲例や展示水槽の改修などの話題はもちろんのこと、巨大な流水の展示や、大人気のペーパーキャップ誕生秘話などの小ネタもしっかりフォローしています。

皆さんの思い出に残っている海浜水族館を懐かしみながら振り返っていただけるとうれしいです。

水族館の裏側

開館中の館内でスタッフをあまり見かけない理由は裏側にあります。皆さんが見慣れている展示水槽の上（2階）にはバックヤードと呼ばれる作業スペースがあります。ここでは飼育スタッフが行う水槽の掃除や餌の準備、生きもののたちの健康管理、繁殖や育成などの重要な作業を行っています。新コーナーに展示予定のクマノミやクラゲの赤ちゃんもこのバックヤードで生まれて育てられています。

生きもののたちの飼育業務に休みはありません。お盆、正月、ゴールデンウィークも関係なく、生物観察や飼育業務に力を注いでいます。

教育施設として

開館当時より、市内全小学校と連携し実物資料を活用した様々な学習支援を行っています。小学校の学習カリキュラムに水族館学習が組み込まれている活動は**全国でも碧南市**だけです。この活動は、全国の水族館や博物館から現在も高い評価をいただいています。校外学習で訪れた児童が、今では親として我が子と来館したり、なかには海浜水族館に就職してスタッフとして来館者をお迎えしたり、たくさんの方々の人生に携わってきました。今後も地域の子どものための健やかな成長に寄与していきます。

これから目指すもの

今こそSDGsが注目されていますが、絶滅危惧種の保護や水辺の自然について学習ができる場として何十年も前から活動してきました。これからも、時代のニーズに合った水族館ならではの活動に取り組みながら「不易流行」の理念で、引き続き自然と人をつなぐ架け橋となり「学びの場」や「憩いの場」として、全ての人の「生きる力」に通じる情報発信を続けていきます。

海浜水族館 インスタグラム

